



毎晩の船内のバーゲンセールを楽しむクルーズ客

池田 良穂

(大阪経済法科大学
客員教授)

新クルーズ学

11

クルーズ客船がやってくる
と大きな経済効果がある
と言われています。

その一つが乗客が上陸して使う消費ですが、その金額を正確に把握するのは容易ではありません。各港で調査が行われていますが、この結果がばらばらで、どのくらいの消費額が本当なのかよく

クルーズの経済効果

取り調査に基づいているためです。

今年から、観光庁が行う訪日観光客の消費動向調査に、クルーズ客船での訪日客の調査統計が加わりました。この調査

その速報結果によると、今年1-3月期でクルーズ客1日あたりの旅行中支出は約3万1千円、クルーズ以外の

訪日観光客の約2万6千円を5千円余りも上回るものでした。

円)、宿泊費0円(70円)、78円)というものでした。なおカッこの数字はクルーズ客以外の支出額です。

寄港地での消費額が、一般観光客に比べて多いのは、オールインクルーズというクルーズの料金システムが大きく影響しています。

払っているため、つい財布のひもが緩くなるのです。特に注目すべきは、買い物代が一般観光客の3倍にもなっていることと、他の費目に比べて突出していることです。

この調査結果から、クルーズ寄港地が経済効果を上げるための戦略がみつきます。クルーズ客

す。その間に陸上での観光・買い物を楽しみませす。実は、クルーズ客は船上でもショッピングをしていきます。船内ショップが、最後の買い物港の近くであればお金を落とすことになりま

並んでおり、さらに毎晩の免税店のぞきも可能になっています。クルーズ客の好みとニーズを的確に分析して、最適な物を、適切な場所と時間に販売を行うことがクルーズの経済効果を高めます。

効率よくショッピングが楽しめることが必須条件です。

たとえば、観光を終えて船に戻ってくる乗客が、最後の買い物港の近くであればお金を落とすことになりま

買物代が一般観光客の3倍

時間は一般的観光に比べるとはるかに短いので、

は、大型クルーズ客船が頻りに寄港する博多、長崎、那覇港で行われ、四半期ごとに結果が公表されます。

その内訳は、買物代2万9338円(9644円)、飲食費1380円(5403円)、交通

すなわち、クルーズでは移動費、宿泊費、食事は一般的には朝に到着して夕方には出港し、滞在時間は6-8時間

滞りません。クルーズ客は船内では売っていない商品を上陸時には求め

ます。したがって、クルーズを的確に分析して、最適な物を、適切な場所と時間に販売を行うことがクルーズの経済効果を高

めます。